九州歯会誌 43(5):808~813, 1989.

福岡県の歯科医療需給に関する住民意識調査

九州歯科大学口腔衛生学講座 (主任: 竹原直道教授)

福岡県衛生部* (主任: 熊谷富士雄部長)

宮崎 秀夫・山口 佳子・山下 喜久
上野 幸子・十亀 輝*・竹原 直道

平成元年8月21日受付

The Survey of Consciousness Concerning the Demand for and Supply of Dental Care in Fukuoka Inhabitants

Hideo Miyazaki, Yoshiko Yamaguchi, Yoshihisa Yamashita,
Sachiko Ueno, Akira Sogame* and Tadamichi Takehara

Department of Preventive Dentistry (Chief: Prof. Tadamichi Takehara)
Kyushu Dental College, Kitakyushu, Japan

*Public Health Department (Chief: Dr. Fujio Kumagai)
Fukuoka Prefectural Government, Fukuoka, Japan

A consciousness survey concerning the demand for and supply of dental care was conducted for the inhabitants in Kokurakita-ku having an excess of dentists, Aka village having no dentist and Munakata city which is the intermediate type between the above two areas. As a result, the inhabitants in Kokurakita-ku were quantitatively satisfied with the provision of dental care, while there was an extremely high demand for the care in Aka village. In Munakata city, the degree of satisfaction with the dental care tendend to be the same as that in Kokurakita-ku.

Key words : *Consciousness survey / Dental care*

緒 言

1970年に39人であった我が国の人口10万人対歯科医師数は、1986年には54.9人を超えるに至っている。このことから、歯科医師数の過剰が危惧されている¹⁾。

福岡県の場合、この傾向はさらに強く、10万人対歯科医師数は67人を超えた(1986年)。しかしながら、地域的には、歯科医師数の偏在が見られ、福岡県においても無歯科医村が3カ村存在している。この様に福岡県においては、都市部における歯科医師の過剰現象と、一方で無歯科医村の存在という、歯科医療需給のアンバランスが見られるのである。この現象に対して、歯科医療供

給側の対策は、歯科大学の入学定員の削減を初めとして様々に行われようとしている。

これに対して歯科医療を受ける側の住民は、どのようにとらえているのであろうか。

本報では県内の特徴的な3地域の住民を対象にしてそのニーズを把握し、もって地域住民に対する歯科保健対策のあり方を検討する為、基礎調査を行ったので報告する。

方 法

1. 調査対象

表1に厚生統計協会編『地域医療計画基礎統計』²⁾な

表 1 福岡県の市町村別人口10万人対歯科医師数

全国	54.9						
福岡県	67.7						
北九州市	78.8	太宰府市	27.7	嘉穂町	41.3	広川町	39.5
門司区	67.6			筑穂町	44.7	矢部村	40.3
若松区	63.0	筑紫郡		穂波町	36.4	星野村	42.3
戸畑区	73.8	那珂川町	32.4	庄内町	9.6		
小倉北区	136.4			潁田町	25.5	山門郡	
小倉南区	47.0	粕屋郡				瀬高町	50.9
八幡東区	92.3	宇美町	42.0	朝倉郡		大和町	31.3
八幡西区	61.5	篠栗町	27.1	杷木町	80.8	三橋町	28.2
		志免町	41.5	朝倉町	17.2	山川町	63.3
福岡市	100.7	須恵町	34.9	三輪町	28.4		
東区	144.3	新宮町	26.7	夜須町	30.1	三池郡	
博多区	108.1	古賀町	41.2	小石原村	71.7	高田町	22.5
中央区	162.0	久山町	39.6	宝珠山村	46.2		
南区	52.2	粕屋町	41.3			田川郡	
西区	38.4			糸島郡		香春町	26.2
城南区	44.8	宗像郡		前原町	40.2	添田町	44.7
早良区	132.4	福岡町	44.1	二丈町	43.5	金田町	54.5
		津屋崎町	29.7	志摩町	26.8	糸田町	34.5
大牟田市	65.9	玄海町	32.6			川崎町	22.0
久留米市	80.3	大島村	0	浮羽郡		赤池町	20.4
直方市	68.2			吉井町	67.0	方城町	24.2
飯塚市	90.4	遠賀郡		田主丸町	39.9	大任町	28.8
田川市	56.9	芦屋町	37.5	浮羽町	47.6	赤村	0
柳川市	60.1	水巻町	39.9				
山田市	49.2	岡垣町	28.7	三井郡		京都郡	
甘木市	43.6	遠賀町	31.3	北野町	41.6	苅田町	46.4
八女市	74.5			大刀洗町	29.5	犀川町	21.7
筑後市	48.4	鞍手郡				勝山町	26.7
大川市	39.7	小竹町	52.5	三潨郡		豊津町	31.8
行橋市	45.8	鞍手町	29.2	城島町	35.0		
豊前市	65.7	宮田町	53.0	大木町	30.4	築上郡	
中間市	45.7	若宮町	47.4	三潨町	34.5	椎田町	42.2
小郡市	38.8					吉富町	53.0
筑紫野市	45.9	嘉穂郡		八女郡		築城町	52.2
春日市	42.4	桂川町	21.8	黒木町	34.7	新吉富村	24.9
大野城市	44.6	稲築町	42.4	上陽町	38.2	太平村	0
宗像市	37.7	碓井町	28.8	立花町	13.7		

らびに総務庁統計局編『国勢調査報告書』³⁾を資料として算出した福岡県の市町村別、人口10万人対歯科医師数を示す。図1は表1を図示したものである。

今回の調査は、表1、図1を参考にして福岡県の歯科医師過密地域である北九州市小倉北区、無歯科医村の田

川郡赤村、中等度の歯科医師数を持つ地域である宗像市において、それぞれの住民を対象として、1989年3月に面接法により調査を行った。調査対象は520名（男203名、女317名）で、その性別、年齢別および地域別階級を表2、3に示す。

図1 福岡県の人口10万人対歯科医師数（人）

100<
 55~99
 30~54
 1~29
 0

表2 地域別の調査対象数と地域状況

地域	調査対象数			地域状況	
	男	女	合計	人口10万人対 歯科医師数	人 口
小倉	79	118	197	136.4	214149
宗像	71	123	194	37.7	60971
赤村	53	76	129	0	3987

表3 調査対象の年齢別数

年 齢	小倉	宗像	赤村
10代	66	48	16
20~30代	55	55	49
40~50代	49	55	44
60代~	27	36	20

2. 調査項目

調査項目を以下に示す。

①年齢、②性別、③昼間・主に過ごしている場所、④かかりつけ歯科医院の有無、⑤かかりつけ歯科医院までの利用交通機関、⑥通院時間、⑦予約制の有無、⑧待ち時間、⑨受診できる時間、⑩休診日、⑪歯科医院の便利性、⑫自宅近所の歯科医院の数についての認識。

④かかりつけ歯科医院の有無については、『あなたの歯が悪くなった場合に 1. いきつけの歯科医院がある 2. 特に決めていない 3. 歯科医院にいったことがない』の 3 項目から選択させた。⑪歯科医院の便利さについては『歯科医院はどこにあれば便利ですか』と質問し、『今の距離で便利』、『もっと近くに』の 2 項目を選択させた。⑫自宅近所の歯科医院の数についての認識については、『あなたの家の近所に歯科医院の数は 1. もっと少なくてもよい 2. 今のままでよい 3. もっと多くてもよい』の 3 項目を選択させた。

調査は全員に、①から④までの解答を求め、④でいきつけの歯科医院があると答えた人は、⑤から⑫までの、④で特に決めていないと答えた人は⑪と⑫の回答を得た。結果の比較には χ^2 検定を用いた。

結 果

③昼間・主に過ごしている場所についての調査結果を表 4 に示す。

次に、④かかりつけ歯科医院を持つものの割合を、図 2 に示す。

⑤かかりつけ歯科医院までの利用交通機関について、図 3 に示す。

⑥かかりつけ歯科医院までの通院時間を、図 4 に示す。

⑦かかりつけ歯科医院の予約の有無を、図 5 に示す。

⑧かかりつけ歯科医院での待ち時間を、図 6 に示す。

⑨かかりつけ歯科医院の診療時間を、図 7 に示す。

⑩かかりつけ歯科医院の休診日を、図 8 に示す。

⑪かかりつけ歯科医院の便利さについて、図 9 に示す。

表 4 昼間・主に過ごしている場所

場 所	小倉	宗像	赤村
学 校	75	44	16
自 宅	40	78	20
職 場	77	69	83
自宅兼職場	5	3	10

す。

⑫自宅近所の歯科医院の数についての住民の認識に関する調査結果を、図 10 に示す。

図 2 かかりつけ歯科医院の有無。

図 3 かかりつけ歯科医院までの利用交通機関。

赤村 宗像 小倉
**p<0.01

図 4 かかりつけ歯科医院までの通院時間。

赤村 宗像 小倉
**p<0.01

図5 かかりつけ歯科医院の予約の有無.

赤村 宗像 小倉

**p<0.01, *p<0.05

図8 かかりつけ歯科医院の休診日.

赤村 宗像 小倉

**p<0.01

図6 かかりつけ歯科医院での待ち時間.

赤村 宗像 小倉

**p<0.01

図9 かかりつけ歯科医院の便利さ.

赤村 宗像 小倉

**p<0.01

図7 かかりつけ歯科医院の診療時間.

赤村 宗像 小倉

**p<0.01, *p<0.05

図10 自宅近所の歯科医院の数についての住民の意識.

赤村 宗像 小倉

**p<0.01

考 察

歯科医療の需給と診療圏に関する研究はいくつか報告されている⁴⁻⁹⁾。しかし、それは歯科医療の供給側からのもが多く、住民側の意識調査を行ったものは少ない。

さて、著者らの調査によるとかかりつけ歯科医院の有無については、都市部である小倉が最も低く(68%)、無歯科医村の赤村が最も高かった(73%)が、この値は木津喜ら¹⁰⁾の報告とほぼ同様であり、都市部住民では特にかかりつけ歯科医院がなくても、いつでも受診できる状況が推察された。

かかりつけ歯科医院までの利用交通機関は都市部の小倉で徒歩の者が多い(57%)のに対して、無歯科医村の赤村では0%であった。また赤村では車の利用が圧倒的に多いのが特徴であった(図3)。

通院距離は小倉、宗像の市部で10分以内が多く、これに対して赤村では30分以内が多かった(図4)。

図3、4の結果から小倉、宗像の市部では徒歩により10分以内で行ける歯科医院が多く、一方、赤村では車を利用して30分以内で通院しているという状況が示された。

図5の結果からは都市部ほど予約なしでも見てもらえるという状況がうかがえた。

住民側から見た歯科医院の位置については小倉、宗像、赤村の順に現状肯定派が多く、逆にもっと近い位置

を望んでいるのは赤村、宗像、小倉の順に強かった(図9)。

また近所の歯科医院の数について見ると、小倉、宗像では現状でよいとするものが多く、赤村では歯科医院の数を増やせという希望が多数を占めていた。

以上のように小倉、宗像では歯科医療の量的供給は住民側から見てほぼ十分と考えられており、県内としては例外的な無歯科医村である赤村では、当然のことながら、歯科医院の開設が望まれていた。宗像は小倉と赤村の中間的位置を占めつつも、小倉と宗像では、その10万人対歯科医師数では大きな開きがあるにもかかわらず、住民側からの反応に大差が見られていない。このことは歯科医療供給の飽和状態が、宗像にも存在することを示すものであろうか。同市が福岡、北九州のベッドタウンであるため、多くの住民が、治療は両市内で受診しているのかもしれない。しかし本調査から伺い知ることは困難である。

結 論

歯科医師過剰地域である北九州市小倉北区、無歯科医村の赤村、両地の中間的なベッドタウン宗像市の住民に歯科医療需給に関する意識調査を行った。その結果、小倉の住民は歯科医療の量的供給にはほぼ満足しているのに対し、赤村では極めて高い需要が存在した。宗像市では、その満足度は小倉とほぼ同様の傾向が見られた。

引 用 文 献

- 1) 厚生省健康政策局歯科衛生課：将来の歯科医師数。口腔保健協会，東京，1987，15—16。
- 2) 厚生統計協会：地域医療計画基礎統計。厚生統計協会，東京，1988，94，164—165。
- 3) 総務庁統計局：国勢調査報告書。日本統計協会，東京，1985。
- 4) 岩内恒雄：歯科診療所の診療圏に関する研究。口衛会誌 26：246—266，1976。
- 5) 総山和雄：地域医療の変化と住民意識ならびに今後の需給の変化。歯界展望 56：123—129，1980。
- 6) 吉田匡俊：歯科医療機関の診療圏。近代口腔科学会誌 7：85—95，1981。
- 7) 末高武彦・福井直寿・柿沼幸宏・須田 優：新潟県下無歯科医地区における 歯科医療受診行動に関する調査。歯学 70：1150—1158，1983。
- 8) 小川光一：医療過疎の充足過程における 歯学部付属病院新患数の変動。日本歯科医療管理学会誌 21：190—196，1987。
- 9) 沖縄県歯科医師会編：沖縄の歯科医療事情に関する調査報告書。昭和61年。
- 10) 木津喜信・末高武彦：歯科医療利用圏に関する研究—新潟県における観察—。口衛会誌 38：186—199，1988。